

HIV陽性者の支援について



NPO法人ふれいす東京
<http://www.ptokyo.org/>

代表/相談員 生島 嗣
e-mail: ikushima@ptokyo.org



ぷれいす東京の活動

2015年実績

予防啓発

東京都エイズ電話相談の一部を受託
ゲイ/一般むけ電話相談 合計2,873件/年
ホームページ運営/パンフレット制作

直接支援

HIV陽性者, 家族, パートナー向けピア・ミーティング:1,166件、バディ派遣 (21人利用)
対面/電話の相談サービス 合計2,807件/年

研究／研修

講師派遣/スピーカー派遣
研修の企画/運営 JICA/自治体/企業
厚生労働科学研究、独自の調査

ボランティア・スタッフ 217人(2015年3月末)

[女性：男性：半々 記載なし：若干名]

事務局構成員 9人

[専任：2人、パート：6人(経理1人)、無給：1人]

予防啓発

エイズ電話相談～他では話しにくい不安に寄り添う

主にHIV検査の受検前後の支援サービス

- ・受検前のアセスメント（性行動、検査時期）
- ・受検後をサポート（結果の理解、今後の行動）
- ・前後の精神面のサポート

（個人が内面化したネガティブな疾病イメージと向き合うことを支援）

- ・東京HIV/エイズ電話相談
- ・ふれいす東京エイズ電話相談
- ・ゲイによるゲイのためのエイズ電話相談



東京都発行 「たんぽぽ」 制作受託

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryu/koho/kansen.files/tanpopo.pdf>

HIV 陽性とわかって間もない人向けの冊子、ふれいす東京が制作を手伝う。保健所、検査所、一般医療機関にて配布。Web上にPDFも設置され、公開されている。職場用ではないが、理解促進ツールとしての活用も可能。

- 1) HIV陽性を告げられたあなたへ
- 2) エイズってどんな病気
- 3) 病院へ行くってどういうこと？
- 4) 日々の暮らしはどうなるの？
- 5) 生活やセイファーセックスについて
- 6) カミングアウト／誰にどこまで？
- 7) あなたのプライバシーについて
- 8) 福祉情報、サービス情報
- 9) 相談窓口集

NPO, HIV陽性者、行政担当で編集。
多くの陽性者の声も納められている。

★東京版、関西版、愛知、神奈川版、秋田版(準備中)



厚生労働省委託事業
2009年6月スタート

ふれいす東京 ポジティブライン

HIV陽性者、パートナー、家族のための相談ライン



月～土 13～20

0120-02-8341

※携帯電話・PHSからもご利用いただけます。



外国語相談(3団体の電話番号で対応)

- CRIATIVOS
～ポルトガル、スペイン、英語、日本語
- SHARE
～タイ、英語、日本語
- CHARM (2012年から独自事業に)
～タイ、フィリピン、スペイン、ポルトガル、
英語、日本語

陽性者、周囲の人むけの相談 2015年度 の相談内容(重複あり)

心理や精神に関する相談	939
生活に関する相談.....	823
連絡等のコミュニケーション	631
対人関係に関する相談	464
制度に関する相談.....	301
病気や病態の変化や服薬	289
医療体制や受診に関する相談	204
検査や告知に関する相談	45
告知直後の漠然とした不安	143
医療機関以外の支援体制・リソースへのアクセス	20
周囲の人からの相談.....	257
専門家(外部)からの相談や連携.....	75

バディ (ボランティア) 派遣先 クライアント (利用者) の状況

2011.1月末

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
ニーズ	会話	会話	外出	会話	会話	通院	買い物・ 会話	買い物・ 会話	会話	会話	外出	会話	外出	会話
訪問先	在宅	在宅	在宅	在宅	病室	在宅	在宅	在宅	在宅	在宅	在宅	病室	在宅	在宅
同居	単身	単身	単身	親) 兄弟(母	単身	単身	単身	単身	母親	単身	両親	ナール (パート) 単身	兄弟	単身
備考	腫瘍・ひきこもり	ひきこもり	痺 腫瘍・片麻痺	全身麻痺	片麻痺	片麻痺	視覚障がい	視覚障がい	疾患 片麻痺・精神	片麻痺	片麻痺	精神	疾患 片麻痺・精神	精神疾患

★本事業は利用者に研修を受けたボランティアを派遣。公的サービス利用を優先し、+アルファの存在。

ネスト・プログラム

HIV陽性者 & 周囲の人ための交流プログラム 2015年度 のべ1,166件
⇒参加には、事前にグラドルールへの承諾、利用登録が必要
⇒面接や相談支援のなかでニーズの高いものをプログラム化

陽性者ためのプログラム

- ・新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)
-感染を知ってから6ヶ月以内
- ・Woman's Salon -女性陽性者
- ・異性愛者のための交流ミーティング
- ・40代以上／10～30代男性陽性者の会
- ・ストレス マネジメント／アサーティブ コミュニケーション入門
- ・ベーシック講座「社会福祉制度」
- ・専門家を招いての陽性者勉強会
弁護士、薬剤師、医師、生命保険、就労
- ・就職活動を報告しあう会(一般枠／障害者)
- ・トークサロン:介護業界／看護師などで働く人

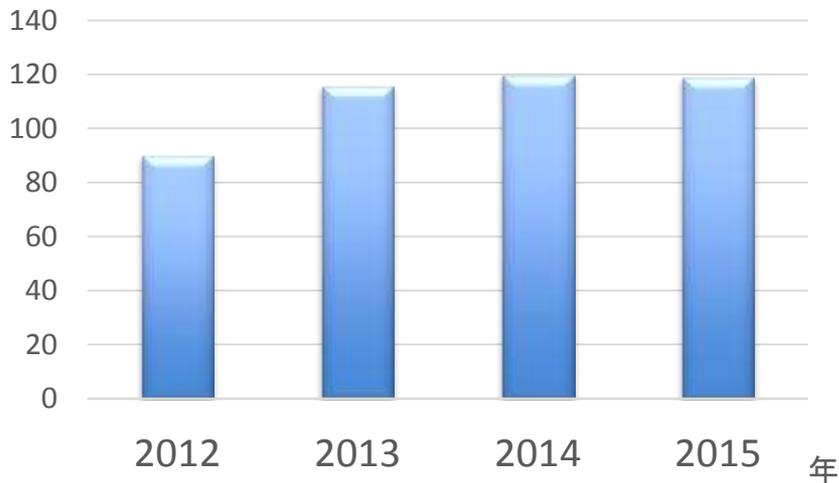
周囲の人のためのプログラム

- ・陰性パートナー・ミーティング
- ・もめんの会
-HIV/AIDSを支える母親の会
- ・カップル交流会
-(+/-)(+/+)のカップル

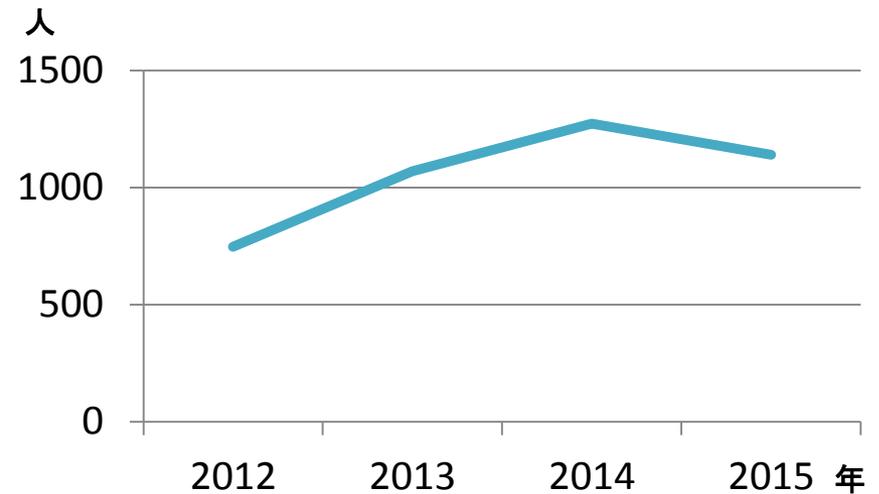
注:ゲイの利用者が多いため、特化したグループは無い。

ネスト・プログラム

* ネスト・プログラム開催回数

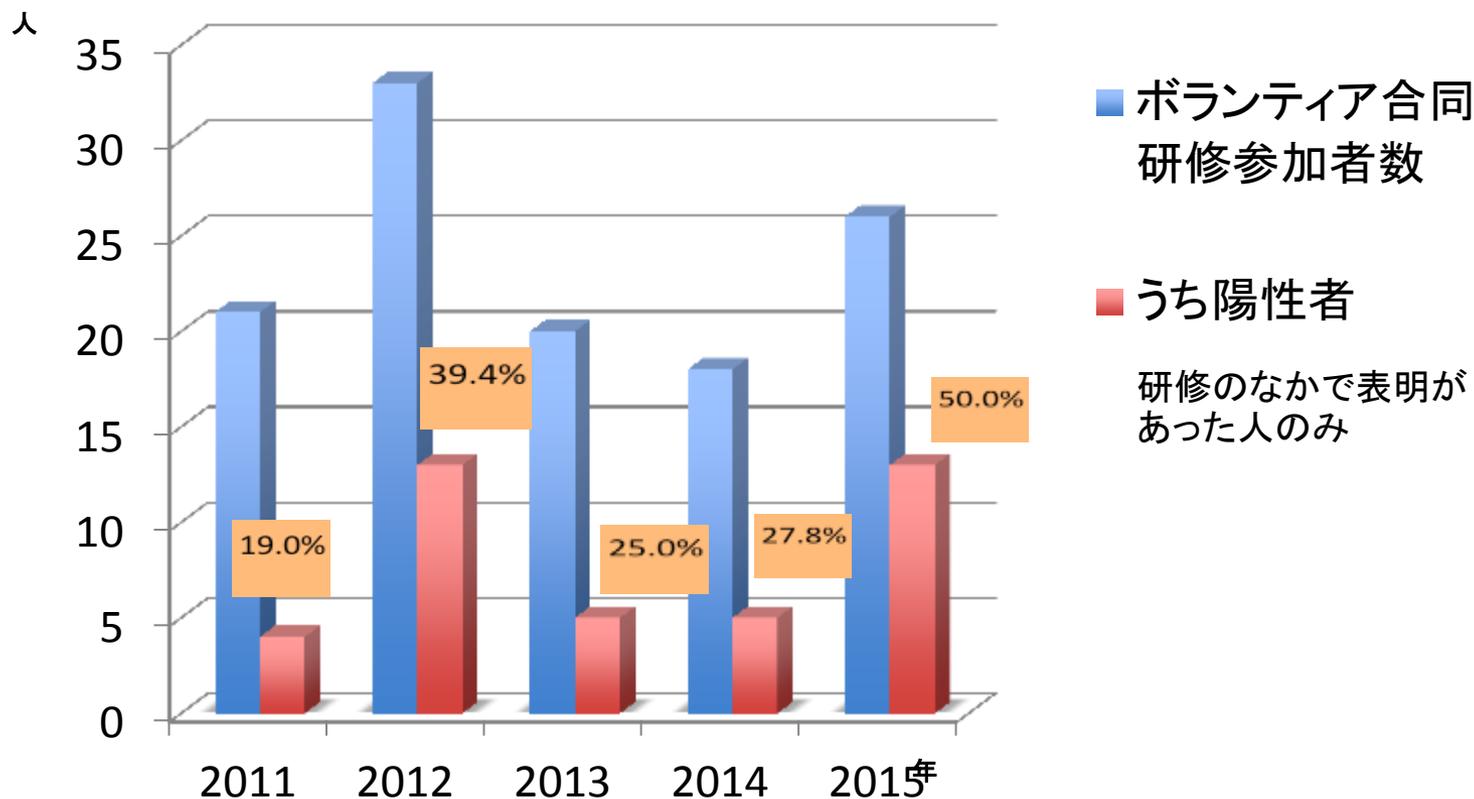


* ネスト・プログラム参加者数



- ・プログラム参加者が年間1,000人を超えるように
- ・プログラム開催数の増加

ボランティア研修参加者の背景



かつてのサービス利用者が提供側のボランティアに



スタッフ+サポーターの一部

PLACE

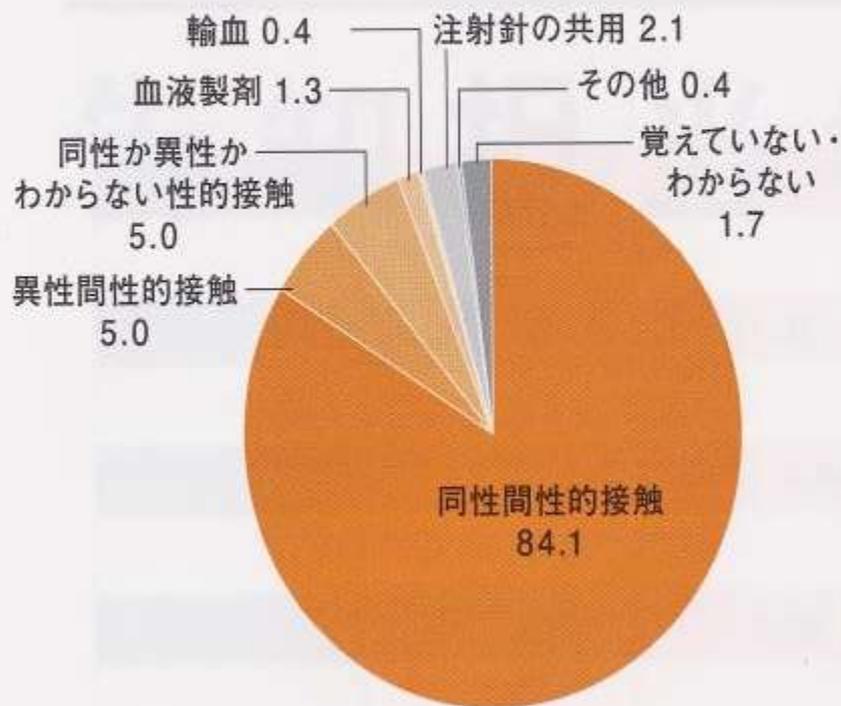
Positive Living And Community Empowerment TOKYO

わたしたちはここにいます

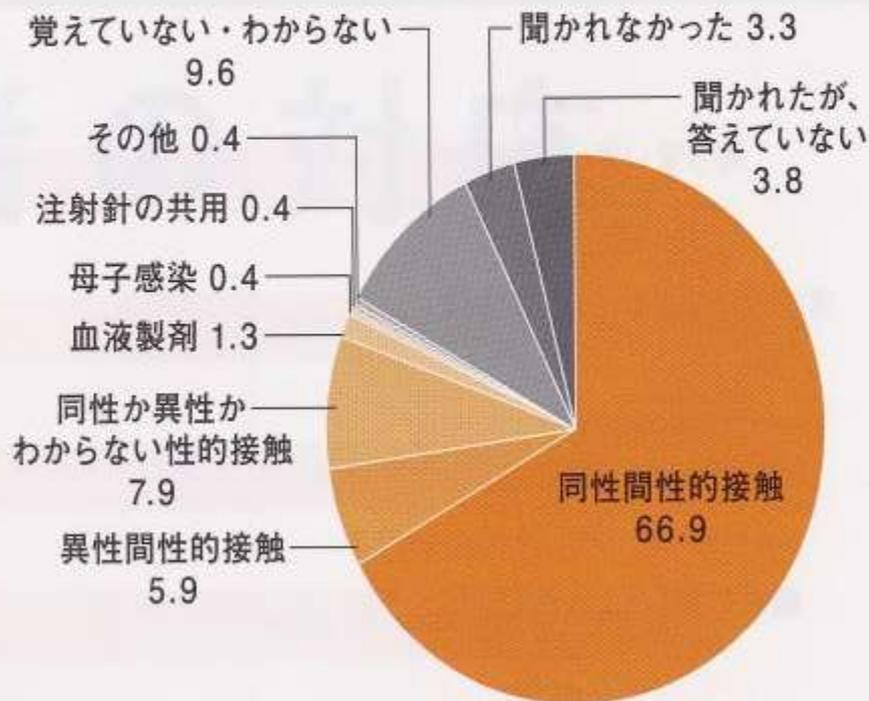
「239人のHIV陽性者が体験した検査と告知」

2011年 ふれいす東京 JaNP+

あなたがHIV感染した経路は
何だと思えますか。(%)



HIV感染経路について聞かれた
ときに、何と答えましたか？ (%)



「HIV 陽性者の生活と社会参加に関する研究」から

- 調査協力病院は、全国8地域の主要ブロック病院と国立国際医療センターの計9病院。調査対象者数は各病院の通院陽性者数の40%とし、2病院は実施体制等を考慮して抽出率を下げた。計1,786票を配付し、1,100 票を回収 (61.6%)。調査紙は医療者より無記名の自記式質問紙を配付し、郵送にて回収。調査期間は2013年7月～12月。
本調査と同時に中核拠点病院などを対象にした調査がある。今回はブロックのみのデータを紹介。

分担研究者：若林チヒロ (埼玉県立大学)

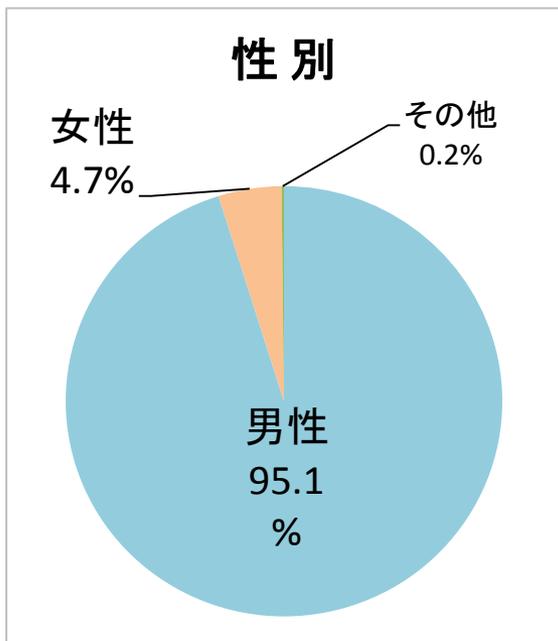
平成24-26年度厚生労働科学研究費補助金 (エイズ対策研究事業)

「地域においてHIV陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究」

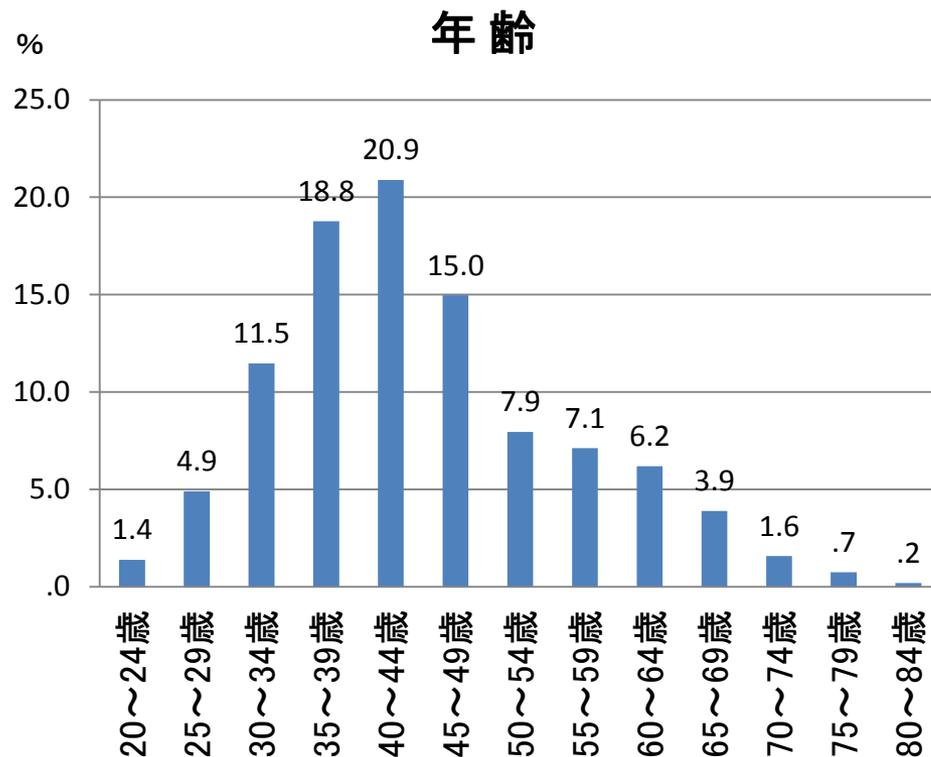
研究代表者：樽井正義 (NPO法人ふれいす東京理事／慶應義塾大学名誉教授)

<http://www.chiiki-shien.jp/>

基本属性

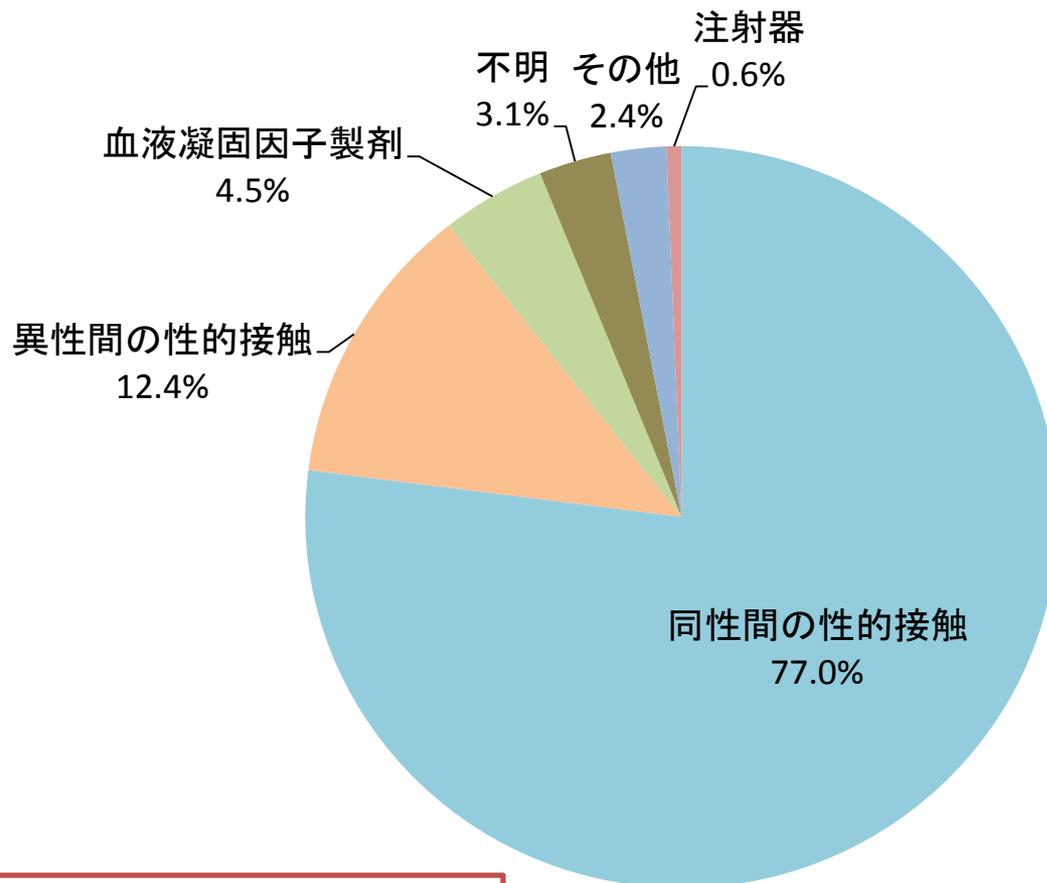


国籍: 日本人が98.3%



平均 44.6 ± 11.3 歳、20 ～ 84 歳まで広く。
60歳以上が12.6%、65歳以上は 6.4%。

感染経路



感染経路はセンシティブ情報
個人的な信頼関係がないなかで、
やり取りする情報ではない。

N=1092

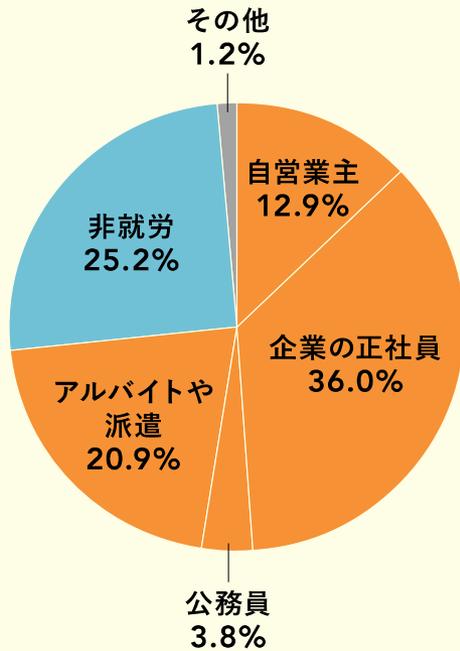
再集計)厚生労働省のサーベイランスの分類により再集計

10年の変化・傾向

	2003~2004年実施	2013~2014年実施	変化傾向
有効回答数(回収率)	566(72.3%)	1100(61.6%)	
抗HIV薬の服薬割合	74.5%	94.5%	増加
服薬回数(1日1~2回)割合	1回:3.1% 2回:81.0%	1回:58.1% 2回:35.7%	1回増加 2回減少
身体障害者手帳取得割合	免疫+重複:74.7%	免疫:92.1%(重複含)	増加
今後の就労意向「とくに制限しないで働きたい」の割合	37.2%	58.4%	増加
障害者枠で就労者の割合	2.9%	4.0%	微増
<u>60歳以上の割合</u>	2.8%	12.6%	増加
通院間隔:2~3ヶ月に1度	37.2%	73.5%	増加
<u>非就労者の割合</u>	非就労:24.2% 休職:0.7%	非就労:23% 休職:1.9%	<u>変化なし</u>
<u>職場でのカミングアウト</u>	同僚:14.5% 上司:16.2% 雇用主・管理者:13.2% 人事担当:6.8% 産業医:4.2%	同僚,部下:7.4% 上司:10.7% 雇用主・管理者:8.3% 人事担当:5.8% 産業医:3.5%	<u>やや減少</u>

しかし、25.2%が非就労

HIV陽性者の就労(図4)

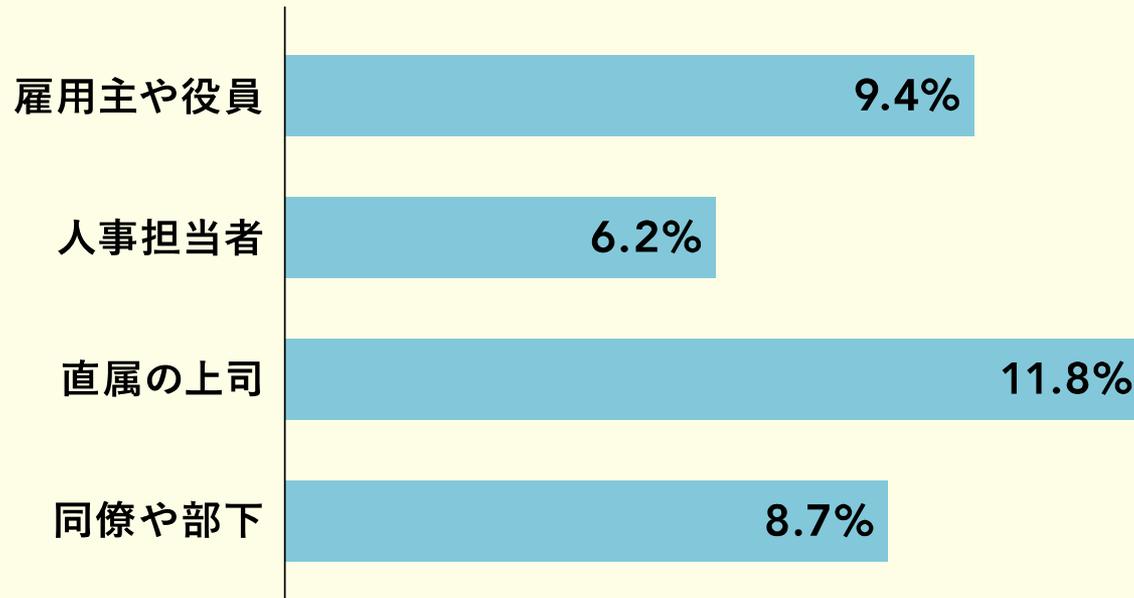


就労者の職種(図5)

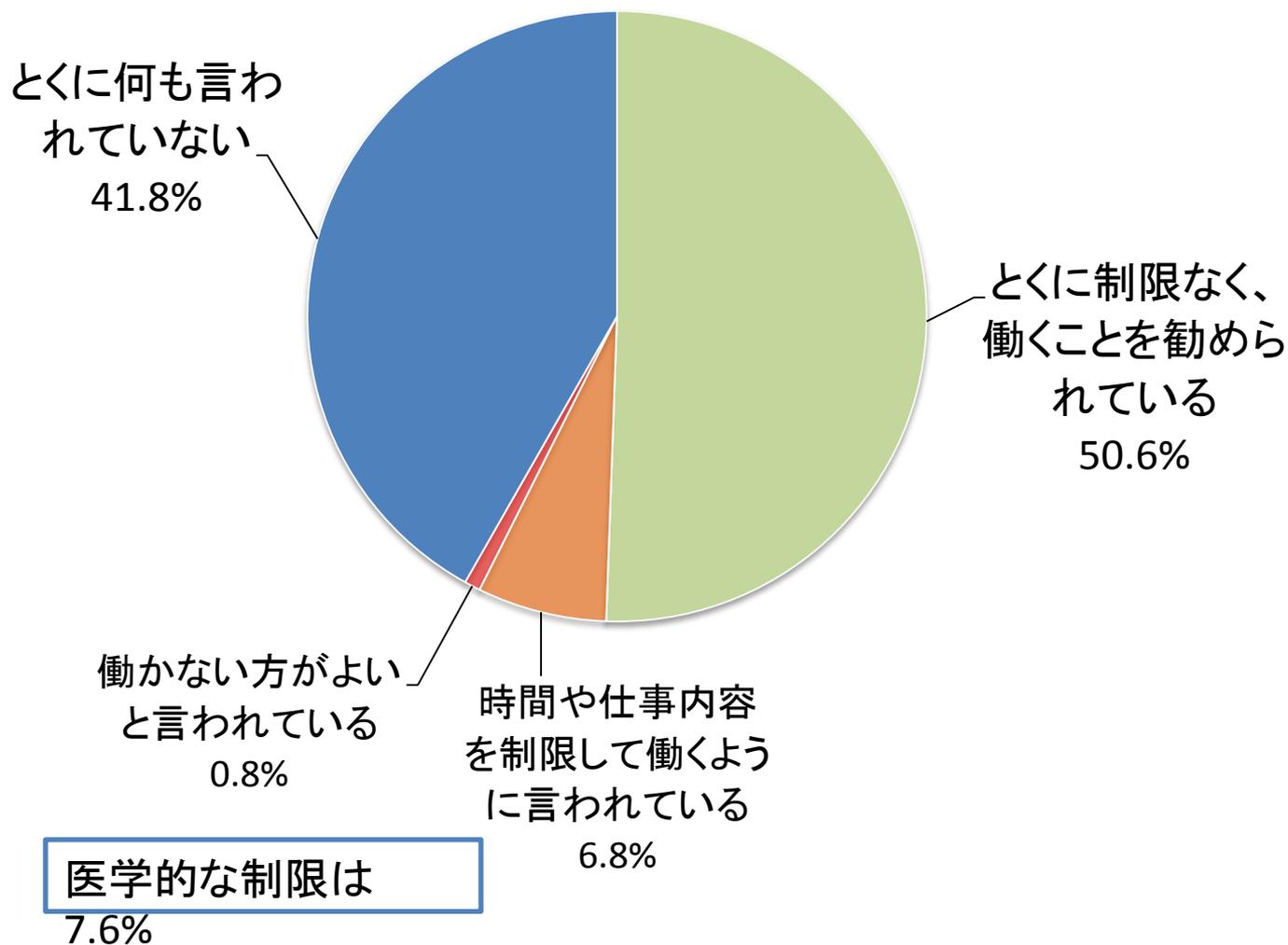


職場では相談しにくい

職場でHIV陽性であることを
知らせている相手(図6)

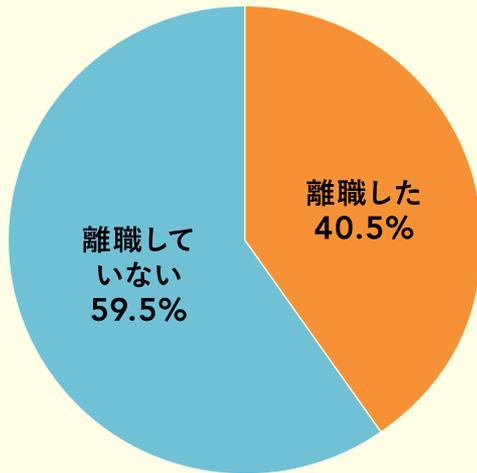


主治医による就労についてのアドバイス

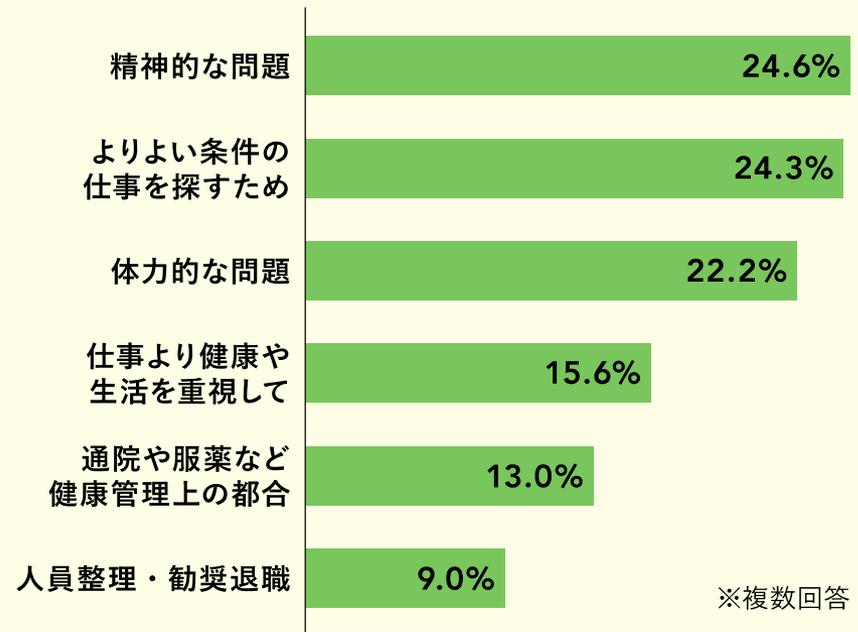


離職、転職、メンタル問題が課題に

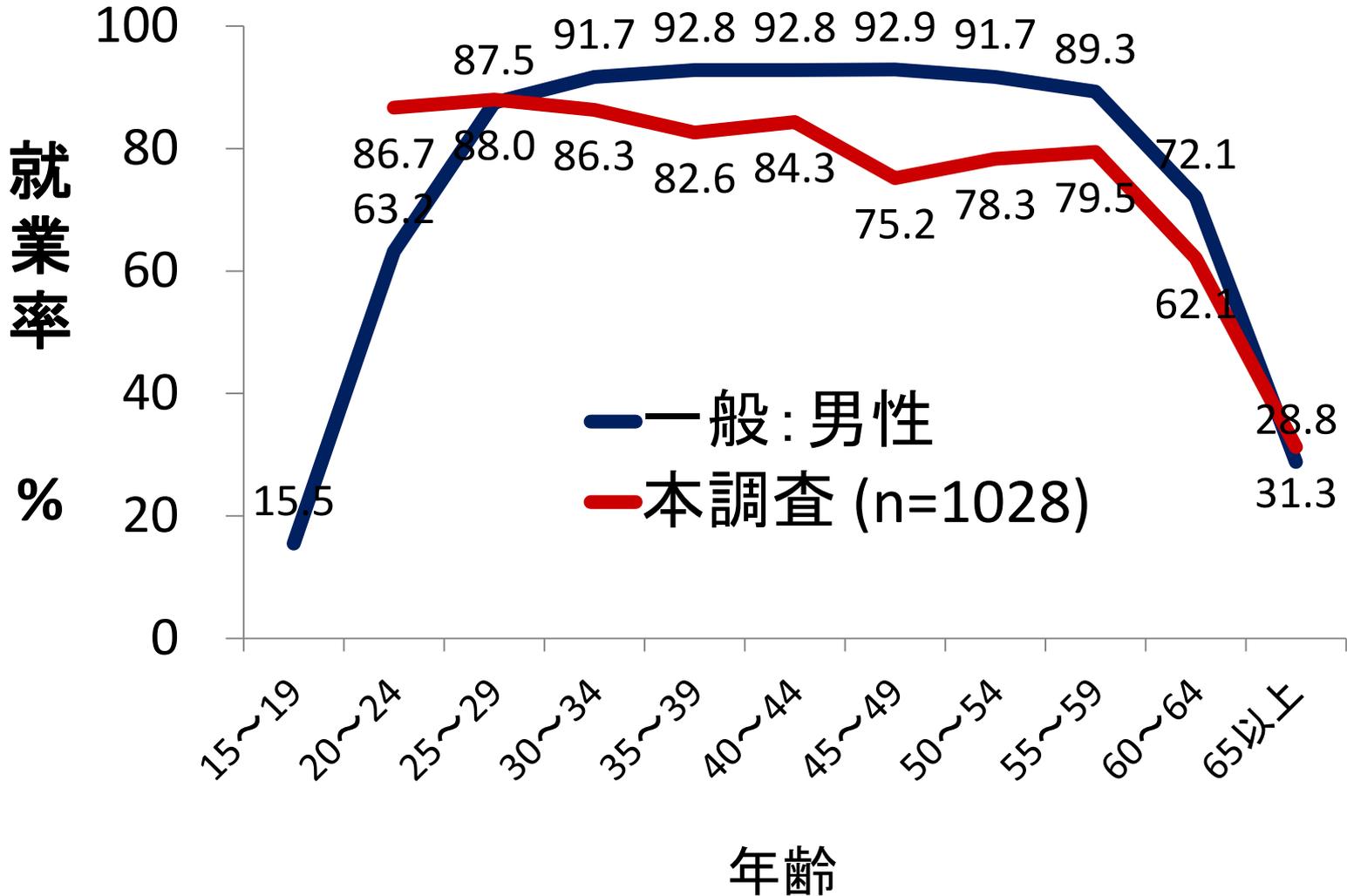
HIV陽性と分かって以降の
離職の有無 (図7)



離職した人の離職理由 (図8)

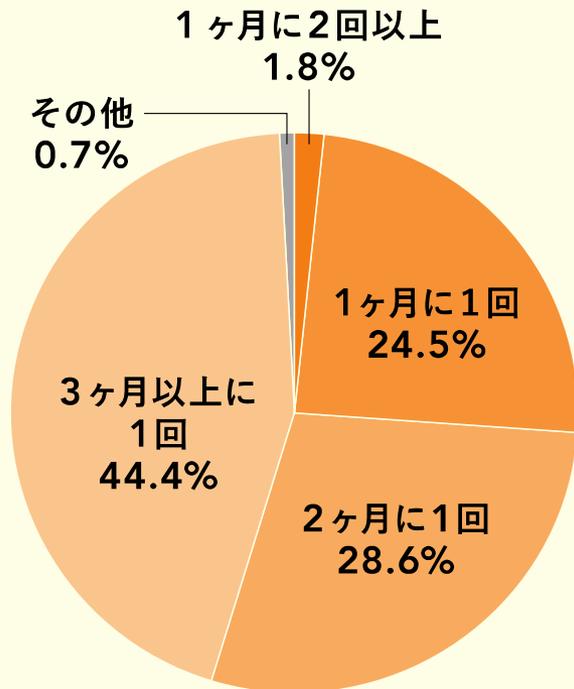


男性年齡階級別就業率：一般と比較

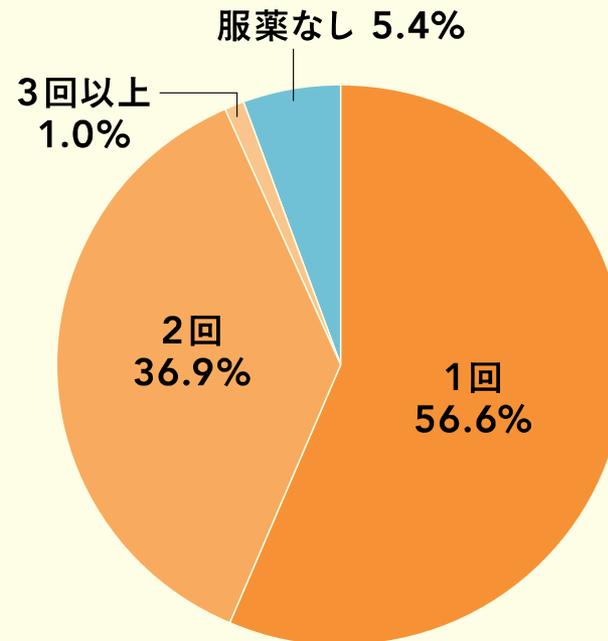


安定した服薬と通院が必須

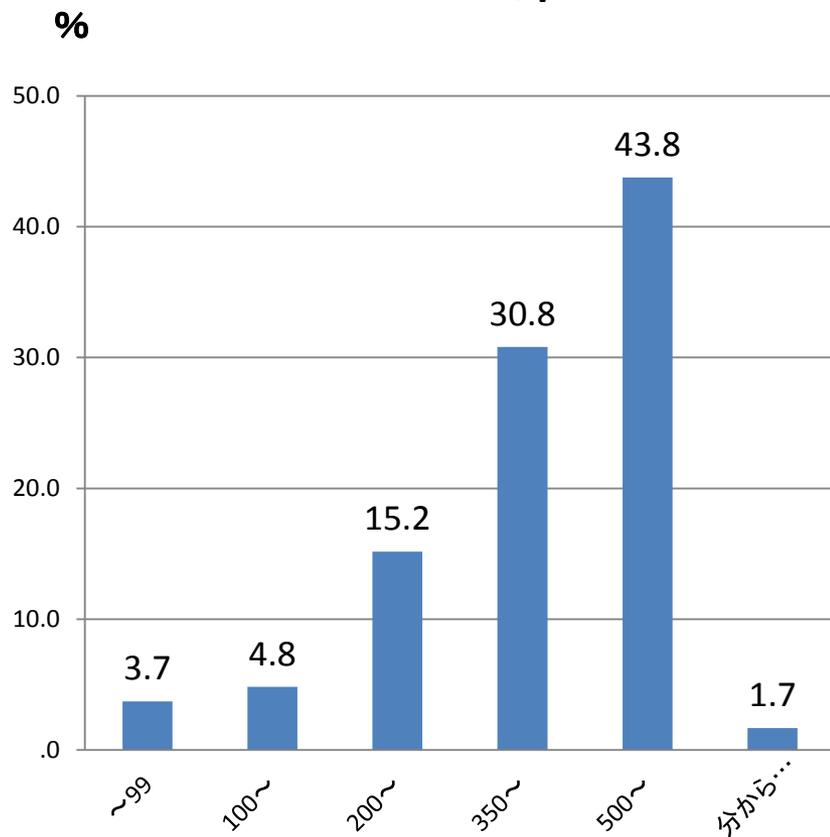
通院の頻度 (図1)



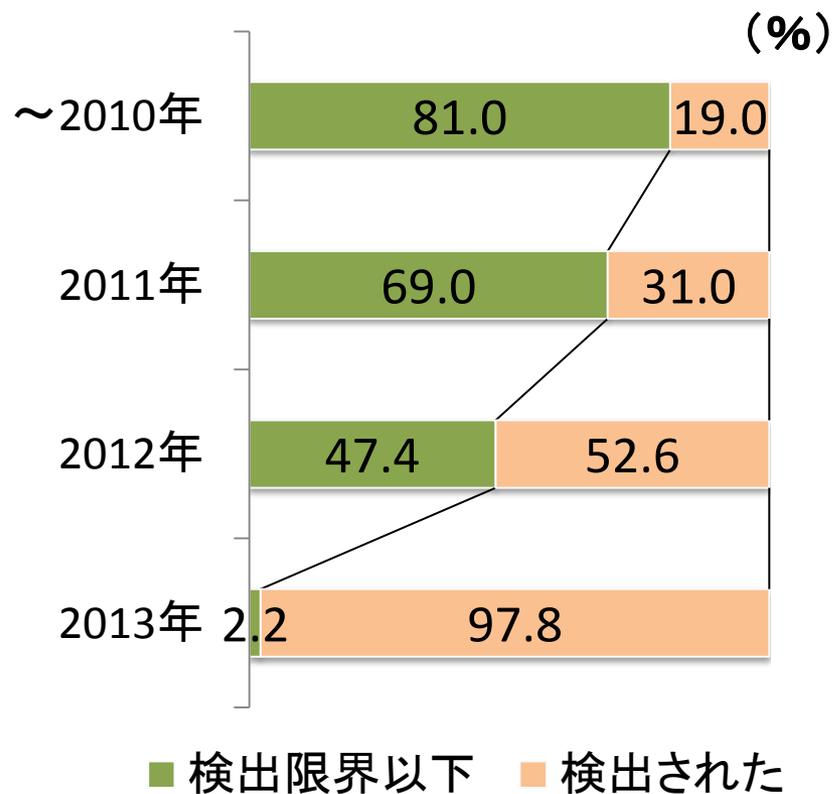
抗HIV薬の
1日の服用回数 (図2)



CD4細胞数(個/μℓ)

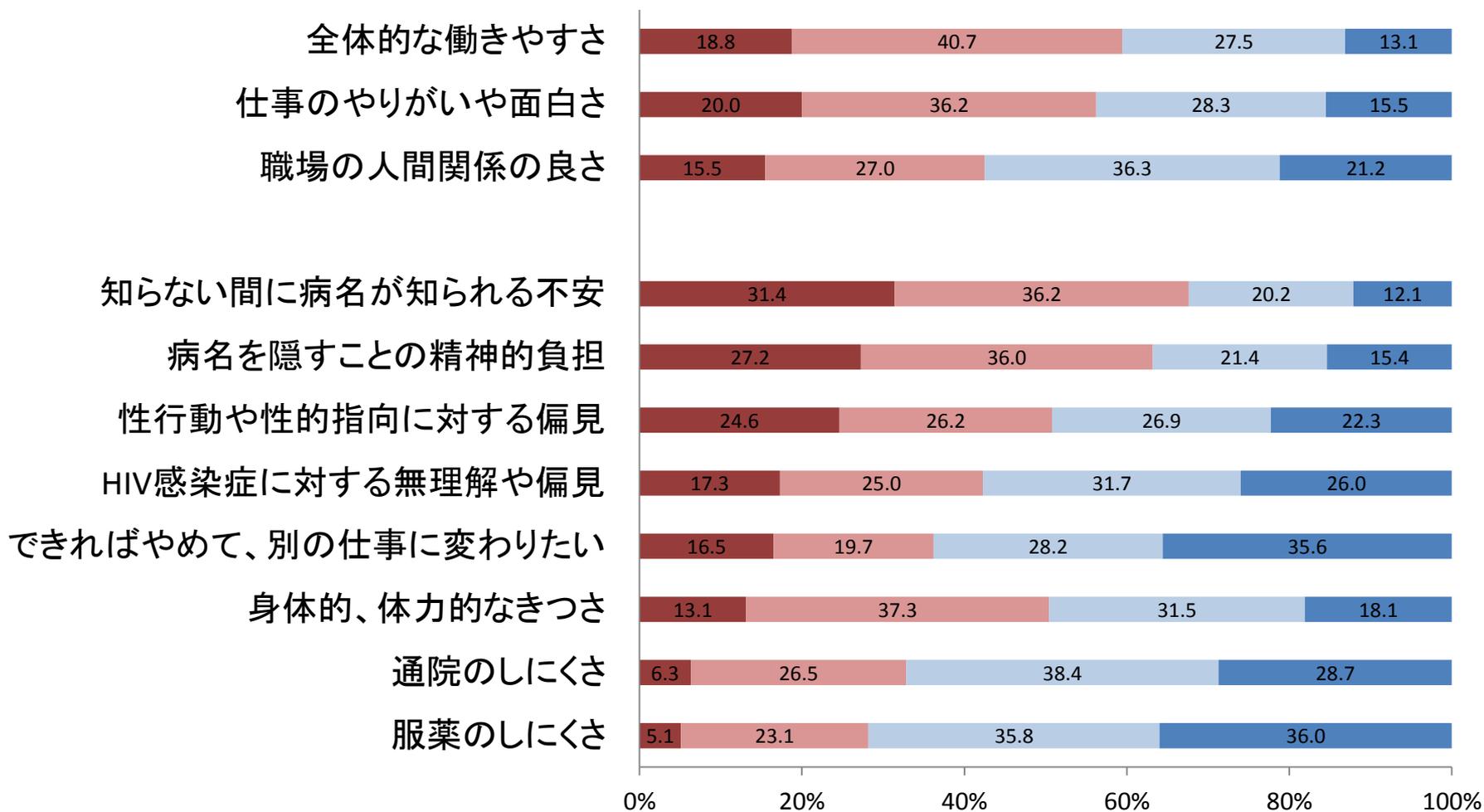


感染判明年・ウイルス量



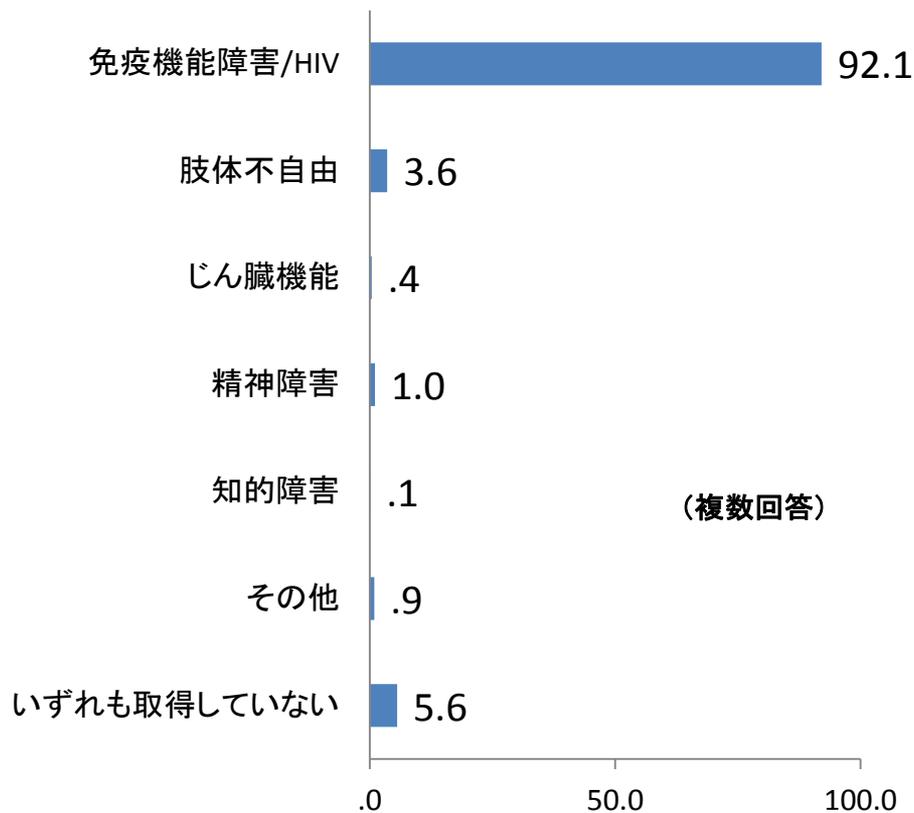
職場評価

■ とても感じる ■ 少し感じる ■ あまり感じない ■ まったく感じない

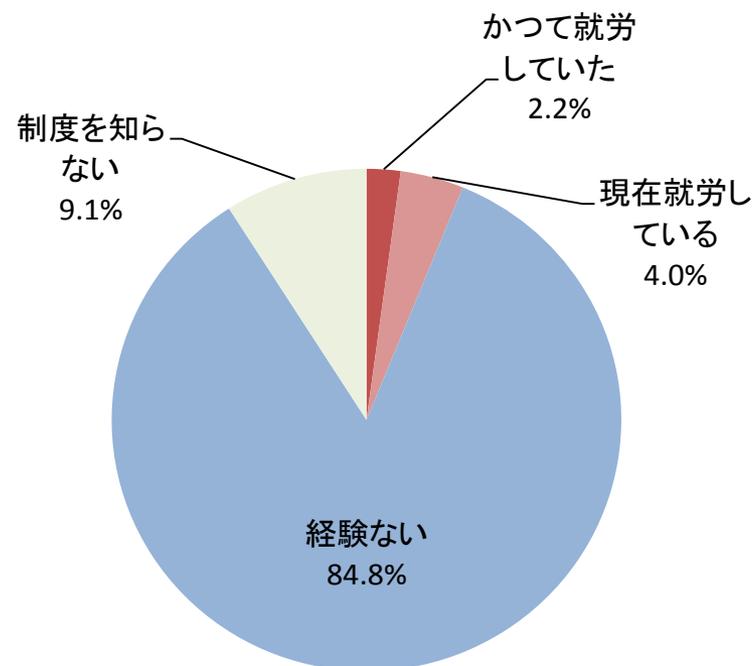


障害認定

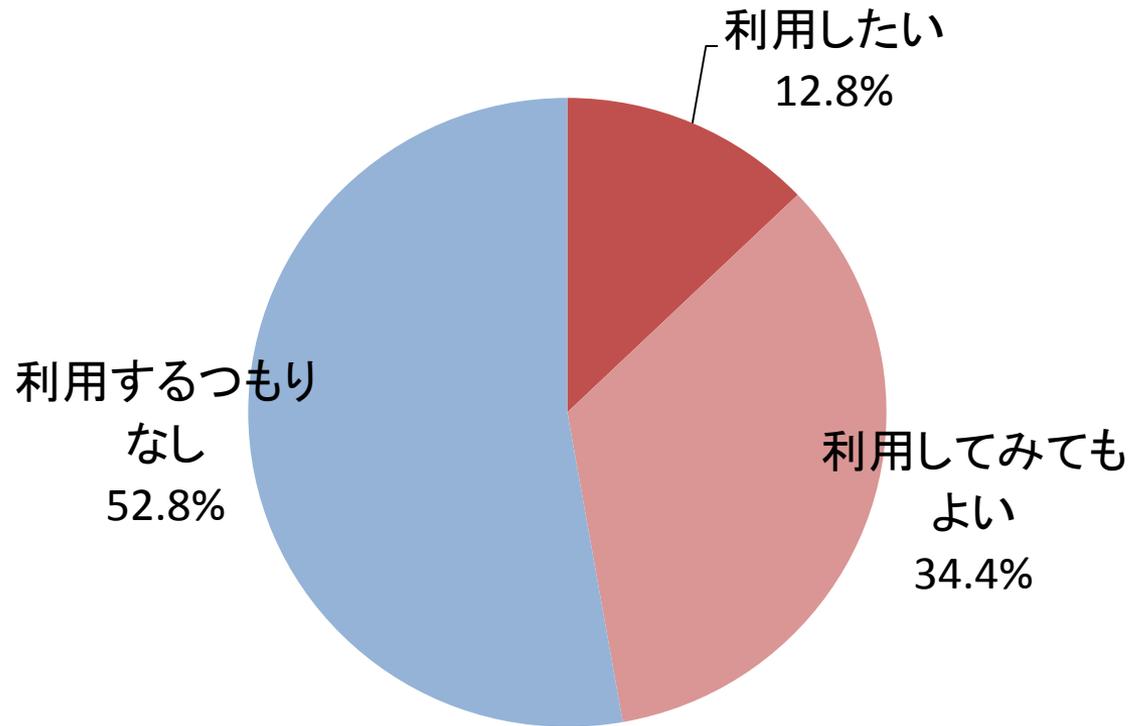
障害者手帳



障害者雇用制度での就労経験



障害者雇用制度での就労意向



今後、障害者雇用制度の利用意向がある人(利用したい+利用してみてもよい)は47.2%

HIV陽性者の生活と健康をテーマに、 全国調査を5年毎に実施

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV陽性者の健康と生活調査」

第1回

2003年度

- ・ 5病院 566票回収/783票配付 回収率72.3%
- ・ 北海道・東京・大阪・九州の中核・ブロック・ACC

第2回

2008年度

- ・ 33病院 1,203票回収/1,813票配付 回収率66.4%
- ・ 全国の中核・ブロック・ACC

第3回

2013年度

- ・ 31病院 1,469票回収/2,473票
- ・ (ブロック・ACC 調査 9病院 1,100票回収/1,786票配付 回収率61.6%)
- ・ (中核等調査 22病院 369票回収/ 687票配付 回収率53.7%)

—HIV治療のこの10年の変化(2003 ▶ 2013)—

抗HIV薬を
服用している人の割合

74.5% ▶ 94.6%

未発症のHIV陽性者の服薬開始に関するガイドラインが変更され、早期治療の利点が明らかになった。それにともない、服薬している割合が増加した。

—HIV治療のこの10年の変化(2003 ▶ 2013)—

通院の頻度が
「2~3ヶ月に1回」の人の割合

37.2% ▶ **73.0%**

HIV陽性判明直後は短い間隔で通院するが、
体調の安定により、徐々に通院間隔が長くなる
傾向がある。

—HIV治療のこの10年の変化(2003 ▶ 2013)—

抗HIV薬の服用回数が
「1日1回」の人の割合

2.3% ▶ 56.6%

HIV陽性者は毎日の服薬が必要だが、治療技術の向上により1日1回の服用で済む陽性者が増え、服薬の負担が軽減した。

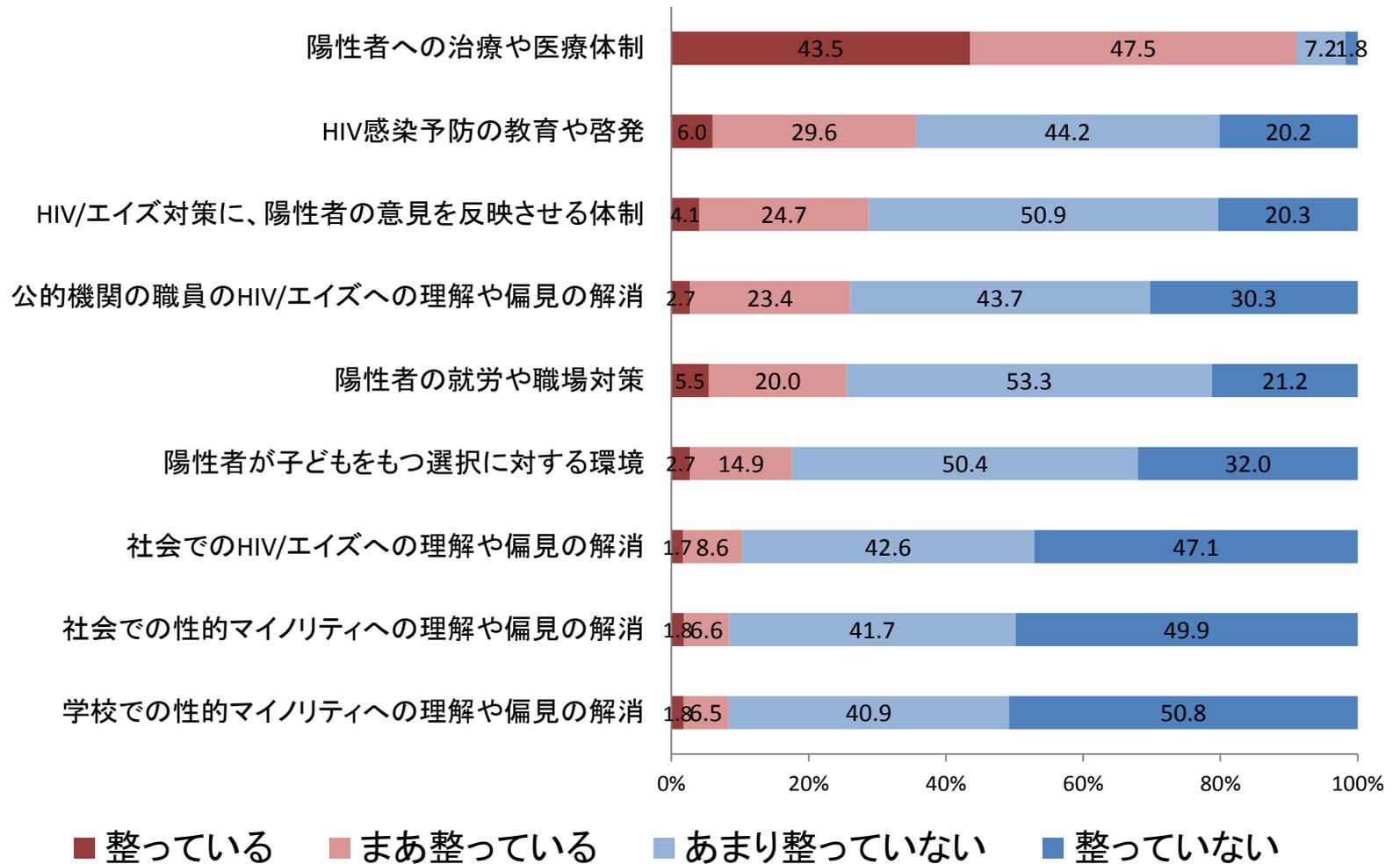
—HIV治療のこの10年の変化(2003 ▶ 2013)—

「制限なく働いていきたい」
HIV陽性者の割合

37.2% ▶ **58.7%**

体調を気づかいながら制限して働きたいという人がこの10年で減少し、制限なく働きたい人というが増加。

日本のエイズ関連政策への評価

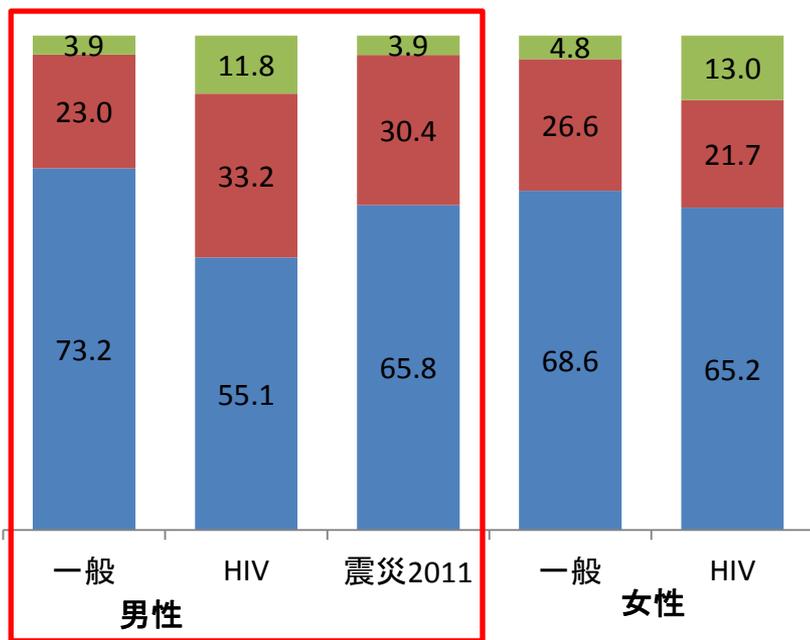


HIV陽性者のメンタルヘルス

※第73回日本公衆衛生学会総会発表データ

性別精神健康度K6: HIVと一般

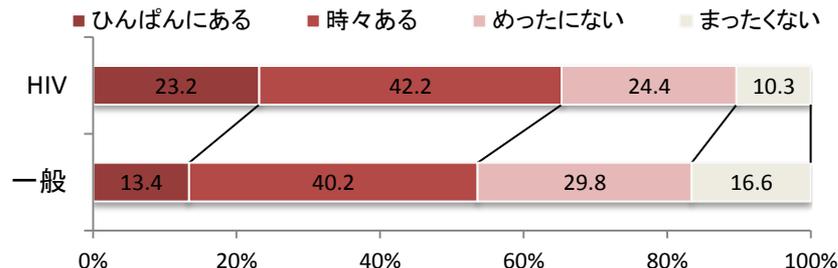
■ 0~4点 ■ 5~12点 ■ 13点以上



注) 一般: 厚生労働省「国民生活基礎調査」

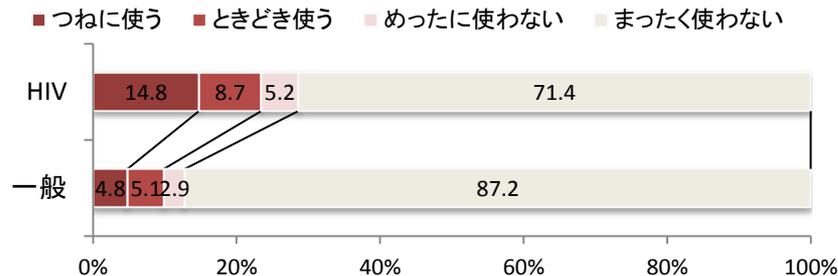
参考) 岩手県震災被害者RIAS調査、2011年男性

睡眠上の問題(不眠など)



注) 一般: 厚生労働省「平成23年 国民健康・栄養調査」

睡眠剤・安定剤の使用

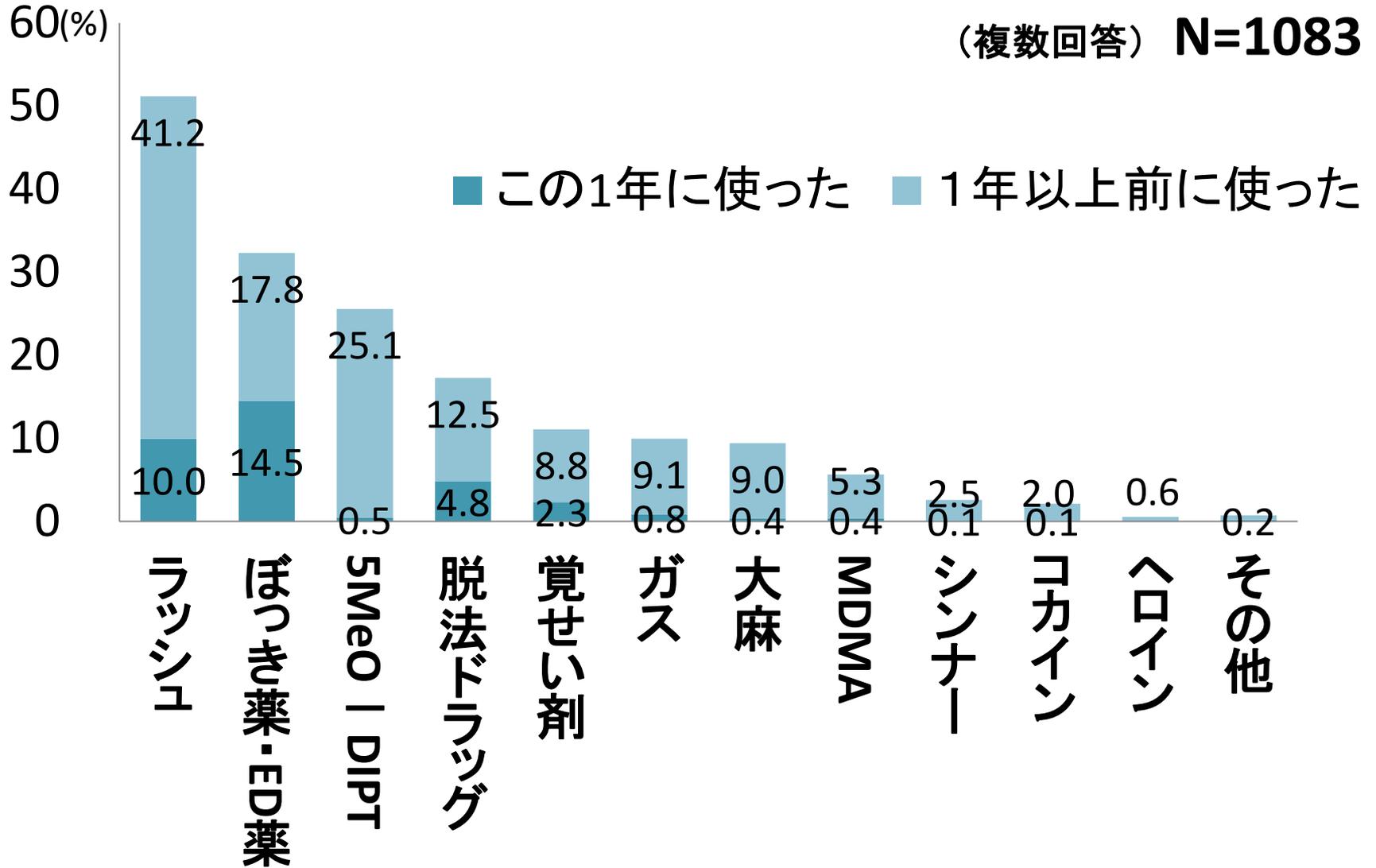


注) 一般: 厚生労働省「平成20年 国民健康・栄養調査」

K6は、うつ・不安障害のスクリーニング尺度。5択で0~20点。5点以上/13点以上で高リスク。一般住民と比べ非常に状態が悪い。精神科を定期受診している人が11.2%。睡眠上の問題をもつ人が多く、睡眠剤の使用率も高い。

薬物の種類別使用状況

(複数回答) N=1083



調査や活動から見えている課題

- HIV陽性者の人的ネットワークは狭くなりがち
- HIV陽性者の就労の継続
- メンタルヘルスの改善、薬物使用の防止
- 企業人事、介護、医療などのサポート提供者への支援の提供

ふれいす東京の職場支援の取り組み

- ハローワーク(障害者職業センター)等からの依頼で、人事担当者、職場むけの研修を実施。
30分程度のクイズ形式で楽しいプログラム。
スタッフ2人でレクチャーを実施しつつ、途中でスタッフの一人が陽性であることをカミングアウト。見た目でわからないこと、言わないでいる人が大勢いることなどを伝えつつ、イメージの転換をねらっている。
- 働く仲間としてのHIV陽性者(免疫機能障害者)への理解をしつつ、個々の健康にも関係があることとして考えてもらっている。



エピソード①

- ぷれいす東京が企業の研修にいった際、人事担当者が社員たちにこういった。
- 「当社はHIV陽性者も差別なく雇用する企業です。もし、皆様が陽性であっても、陰性であっても雇用に変わりはありません。」
- 後日、人事担当者からメールが届く、生島さんたちが来た、後日、何人かはHIV検査にいったらしいのです。
- 差別のない職場環境は、社員が働きやすく、同時にHIV検査を受け易い環境でもあるのだ。

エピソード②

- 対面相談に来所していた、ある20代の若者は、これから就職活動をはじめるとの予定だった。彼は、HIV陽性であることは恥ずべきことではない。だから、就職の際にも、定期通院があることを伝えようと思うという。
- 生島は、心配になり、会社によって理解のレベルに差があるから無理はしない方がいいよと伝えておくりだした。
- 次回の来所相談時には10社程度の面接を受けた後だった。そして、「生島さん、HIVであることは伝えない方がいい情報なのですね」。感染者は黙ってしまう社会は、リアリティをも、見えなくしてしまう社会なのかもしれない。

HIV陽性者の姿が 社会のなかで見えにくい UP DATE YOUR REALITY !

HIV陽性者の語る実感と、社会に流通するイメージの間だに大きなギャップが存在

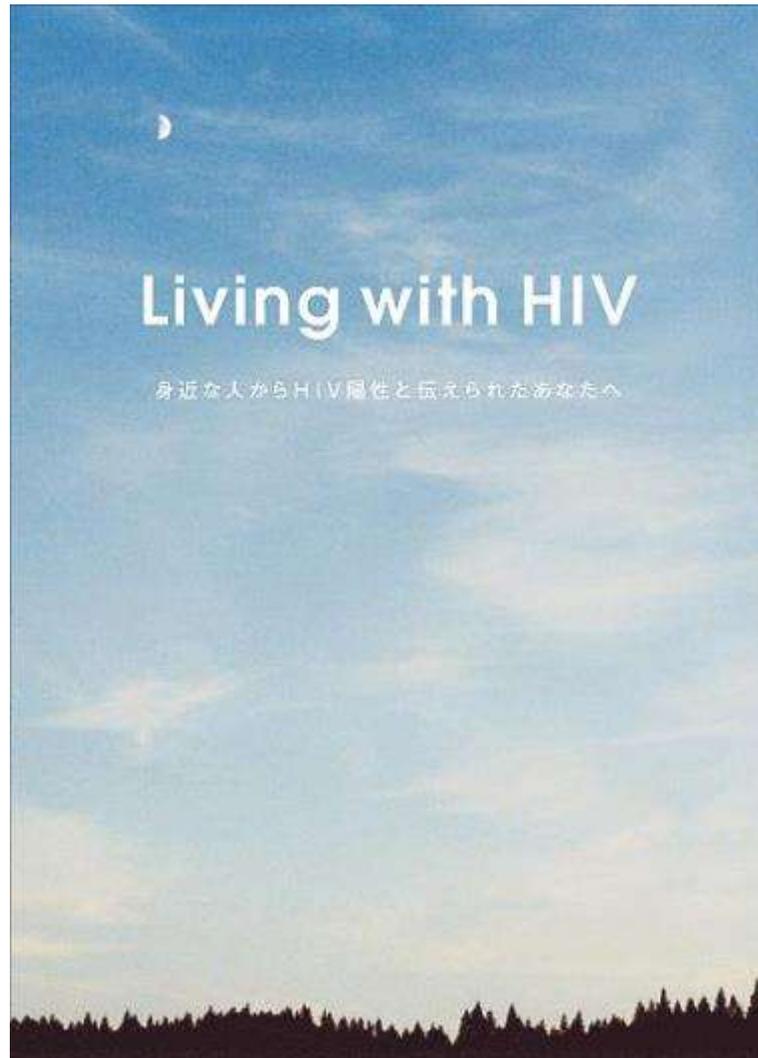
社会の理解の不足が、HIV陽性者に降り掛かっている現状がある。

そのような現状では、カミングアウトは、まだまだ難しいこと。

一方でHIV検査を受ける人にとっても重要。仮に陽性だった場合、先のことを考えるとき、その先のイメージが上手く描けない。

Living with HIV

～身近な人からHIV陽性と伝えられたあなたへ



この冊子には、HIV陽性者のパートナー、家族、友だち、職場の仲間など……。身近な人からHIV陽性と伝えられた人とHIV陽性者による計24編の手記と、基礎知識やデータを取りまとめた短いコラムが掲載されています。

<http://lwh.ptokyo.org/>

HIV検査従事者を対象にした研修

行政によるHIV検査従事者のMSMへの理解を促進する研修会をサポート。東京をはじめ、全国で実施。講義に加えて、具体的な場面を想定した3~4人のゲイ男性を受検役にしたロールプレイを実施。HIV検査従事者からは、多くの気づきがここから生まれ、サービスの利用しやすさにつながっている。

この研修会は、仙台/東北、東京都、千葉県、神奈川県、岡山県、沖縄県、過去には四国4県、長野県でも実施している。



MSMむけのSNS上での調査を実施。

2016. 9月22日～10月22日 **分析中**

きっと良い振り返りになる。



なぜなにアンケート
LOVE & SEX 調査

先着 500 人に、Amazon ギフト券 (500 円) をプレゼント!

9月22日～10月22日 **LASH**

回答者: 10544人

男性 : 10375人

トランス男性: 38人

(生まれた時の戸籍は女性だが男性 / FtM)

トランス女性: 60人

(生まれた時の戸籍は男性だが女性 / MtF)

女性 : 11人

その他 : 60人

セクシュアリティ

ゲイ : 8,102

バイセクシュアル : 1,809

異性愛者 : 39

決めたくない : 227

分からない : 192

その他 : 34

国立国際医療研究センター、コミュニティセンターakta連携による 検査キットの配布会への相談員の派遣 2016



年齢20歳以上のMSMに期間中、検査キット**1,301**を配布した。このうちの相談を希望は、**187件 (14.4%)**であった。

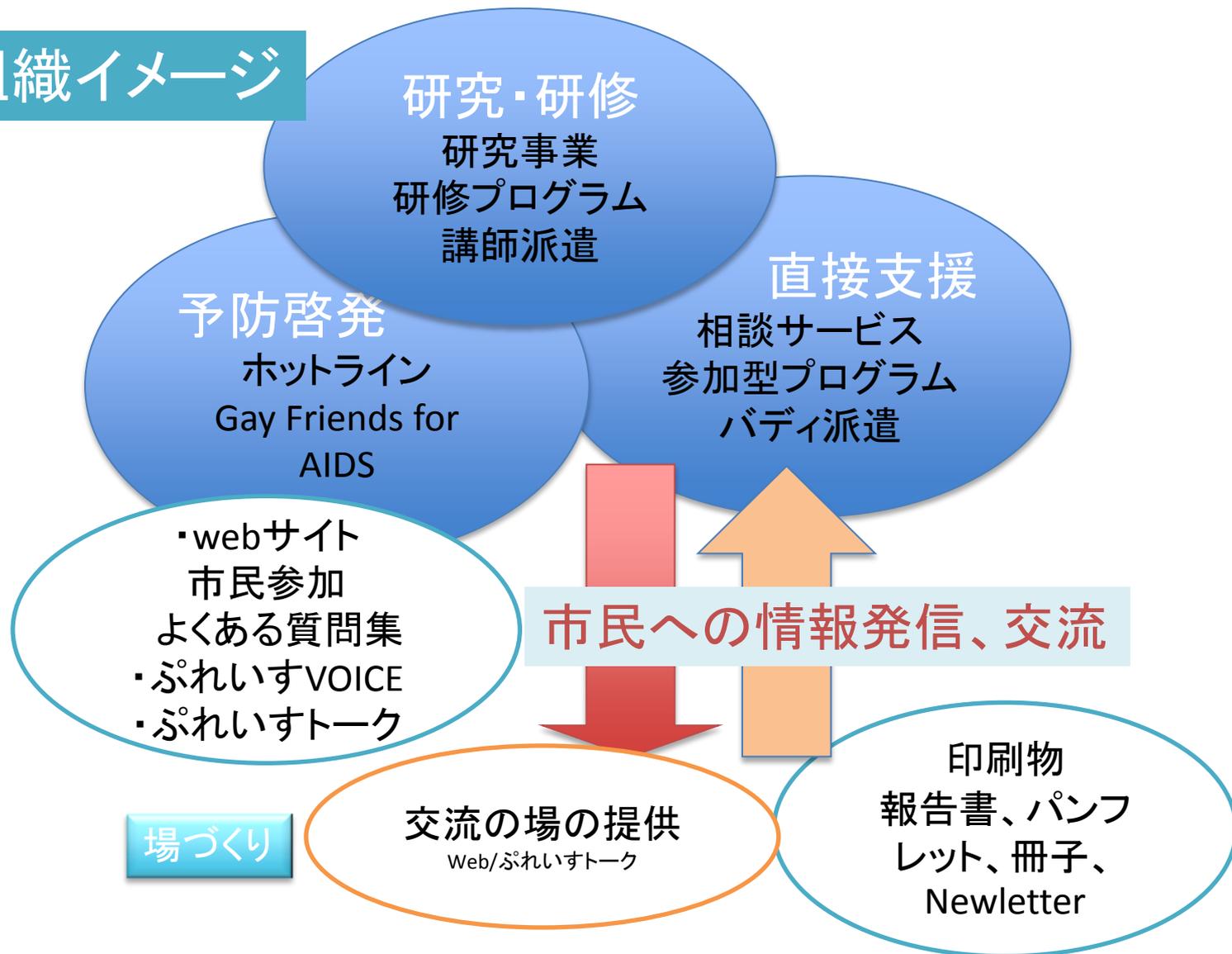
Gay Mens Chorus 2017

12.10(sat) 16～ 於：国立国際医療研究センター



**TOKYO
AIDS
WEEKS**

新しい組織イメージ



参加者が支援側に参加、寄付者に、地域住民との経験共有

➔ 第31回 日本エイズ学会学術集会・総会

The 31st Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research

未来へつなぐ
ケアと予防

Living Together

日時：2017年11月24日(金)～11月26日(日)

会場：中野サンプラザ 他 〒164-8512 東京都中野区中野4-1-1 TEL：03-3388-1151
